

衣 替 え

加藤誓（ちかい）

今年の陽春は気温 27℃かと思えば翌日 18℃、
天気予報もこれの繰り返しを表記しており、
衣替えの日を決めるのが難しかった。



いつも衣替えは女房の仕事であるが、術後でも
あり、自分ですることにした。

まずは、ハンガーに掛かっている冬物で、洗濯が必要な物と簡単な処理で
済むものを選別する。続いて、タンスやクローゼットの物、結構な量である。

衣装ケースや押し入れクローゼットにある夏物を出す。

「ズボン」が沢山出てきたが、試しに履いてみると胴回りがきつく穿くことが出来な
い物がある。これもダメ、これもダメ。

どうも昨年より肥えたようだ。逆にダボダボの物も大事に保存してある。
丁度良いのは数本であった。

「よし！これから、減量！」ズボンに合う身体にと決意。

それを聞いていた女房、「今頃幅の広いのは流行らないわよ。細目のスラックスを
買ったら！」

「スラックス！？格好よく聞こえるね。ズボンは太そうなものね。」

私としては、スラックスではなくズボンであり、厚手のズボン下は「股引」と言い、
薄手は「ぱっち」、夏物は「ステテコ」である。その下の下着はトランクス、
ブリーフなどとは言わず、どれも「パンツㇿ。」なのである。

随分前であるが、若い女性が「パンツ↑。」と言うのを聞いて「パンツㇿ。」
と思ひびっくりしたことを思い出す。

気になったので調べてみた。アメリカ的には「パンツ↑。」はズボン。
イギリス的には、「パンツㇿ。」は下着のことだそうだ。

セーターや冬物の下着など洗濯物の山である。
洗濯機に入れようとしたら、「待って！」「手洗いしてからでないと！」
結局はアイロン掛けを含め女房のお世話になる。

今日はグラウンド・ゴルフ、北風が冷たい。

夜 10℃、寝間着（寝巻？）も半袖のパジャマで寒い。

歳を取るとせっかちになるのか、どうも衣替えが早すぎたようだ。